

「まちづくりの重点課題」の変更理由

	変更前	変更後	変更理由
時間的な視点			(変更なし)
	(1) 子どもがいきいきと育つ 環境づくり 【生まれ・育つ・学ぶ】	課題1 子どもがいきいきと育つ 環境づくり 【生まれ・育つ・学ぶ】	(変更なし)
	(2) 産業競争力の促進強化 【働く】	課題2 産業競争力の促進強化 【働く】	(変更なし)
	(3) 何歳になっても健康で いられるまちづくり 【老いる】	課題3 何歳になっても健康でいられる まちづくり 【老いる】	(変更なし)
空間的な視点			変更前の(1)と(2)では、それぞれの「空間」において、主たる担い手となるのは誰かという点が分かりにくかったため、課題に対し取り組む「主体」別の視点を加味して整理し直しました。
	(1) 地域コミュニティの 活性化 【家庭・近隣区域】	課題4 一人ひとりの意識の醸成 【個人・家庭】	『自助』の領域にあたる対応課題であり、主な取り組み主体は個人・家庭となります。 健康づくりや災害への備えに対する自助のみならず、昨今のコロナ禍への対応の中でも、一人ひとりの取組の重要性が強調されたところであり、全ての基礎となる領域となります。
	(2) 多様な主体の協働 【学区・生活圏域】	課題5 担い手の確保とコミュニティの 活性化 【生活圏域(小学校区)】	『共助』あるいは『互助』の領域にあたる対応課題であり、主な取り組み主体は地域コミュニティ(町会等)、あるいは地域にて活動するテーマコミュニティ(市民活動団体等)となります。 ここを“多様な主体の協働”とすると、担い手には個人と行政が共に含まれてしまうため、このような整理としました。
	(3) 地域のレジリエンス(回復力、復元力、しなやかさ)の向上 【市域・地域全体】	課題6 まちづくりを着実に推進する 行財政運営 【市域・地域】	『公助』の領域にあたる対応課題であり、主な取り組み主体は行政(市役所等)となります。 変更前は防災対策のみが強調されていましたが、茂原市の課題として捉えるべき分野は多岐にわたっており、防災だけではありません。このため、広く「行財政運営」に係る課題を整理するものとなりました。
2つの視点をつなぐ手法			変更前の案では、「シティプロモーション」が突出した感があったこと、審議会で「協働は手法である」との指摘があったことから、「多様な主体の協働」を空間的な視点から移して整理し直しました。
	(1) 先端技術の活用	課題7 多様な主体の協働	上記のとおり、空間的視点から捉えた課題ではなく「手法」と整理しました。
	(2) シティプロモーションの 推進	課題8 先端技術の活用	変更前の(1)を(2)に移動しました。